

平成22年度 地域福祉推進市町村連絡会議報告

パネルディスカッションでの和田先生のまとめ

- 安心生活創造事業は、対象者を掘り起こし、さらに有償の仕組みを導入することによって、新しい利用者と新たな担い手を掘り起こしている。
- 新しい仕組みを創り出す創造的な事業であり、利用者のニーズに基づいて取組む事業である。
- 行政、社協、住民、専門職、民間企業がそれぞれの立場で力を活かし合って取組む事業である。

総括コメントでの中村先生のまとめ

- 地域福祉関係者の関心は、担い手の育成や仕組みづくりに重点が置かれやすく、利用者について丁寧に把握する視点は弱くなりがちである。
- 安心生活創造事業は、必要な基盤支援をしっかりと提供できるように、利用者の視点から、地域のサポートを再構築しようとする事業である。
- そのためには、利用者をよく知ること、利用者像を豊かに持てるようにすることが重要で、担当者は自ら利用者を訪問する機会をもつなど、常に利用者のニーズに敏感に反応できるようにすることが必要である。